

OPACを活用していますか？

図書館の本を探す際に、皆さんはコンピュータで検索されていると思います。しかしコンピュータが導入されるまでは、図書カードを使っていました。以前の図書館では、どれだけ沢山のカードケースが備えられているかが重要な要素の一つでした。ですから、図書館員の整理担当者はカード作りに励んでいました。本学図書館でも図書カードは著者、書名、分類の三種類を作成していました。一冊の本に対して三枚のカードを作り、カードケースに差し込んで行くのですから、大変な労力でした。以前は本館の閲覧室へ上がる階段左側に、びっしりとカードケースが並べられていました。しかしコンピュータの普及に伴い、今度は本のデータをサーバーに入れて行き、入力が終わったカードは撤去することになりました。あれだけ沢山あったカードケースも、今では僅か数台を残すのみとなりました。皆さんの中には図書カードの存在自体を知らない方が多いかも知れませんね。

さて、図書館には多くのコンピュータがありますが、蔵書を検索するコンピュータはOPACと呼ばれています。「オーパック」と読むことが多いようです。これはOnline Public Access Catalogの略称で、名前の通りオンラインで接続された蔵書目録（Catalog）です。余談になりますが、蔵書目録と言えば、以前は個々の図書館が、その蔵書のリストを印刷した冊子体の目録を指していました。今ではコンピュータがそれにとって代わっています。

では、「本学にOPACは何種類あるのでしょうか？」と質問したら、変に思うかも知れませんね。図書館のOPACと言えば、図書館内にある蔵書検索端末を指していると思われるかも知れません。しかし図書館内だけではなくて、図書館のサーバーをインターネットに接続して、物理的距離の制約を取り払って検索出来るようにしたのがWeb OPACです。これですとインターネットが利用出来る環境であれば、学内・学外を問わず検索が出来ます。しかもサーバーは基本的に24時間運転ですから、時間的制約もありません。更に三つ目のOPACとして携帯版のOPACがあります。携帯電話のネット機能を利用したもので、電波が届くところであれば、どこでも利用出来ます。操作性はパソコンには及びませんが、自分専用の検索端末ですから、いつでも利用出来ます。

この三種類のOPACは、よく見ると機能が微妙に異なっています。使い方で分けるとすれば、検索項目が多いのは図書館内にあるOPACで、様々な角度から検索が可能です。しかも学内LANを使用しているため、検索結果は非常に早く表示されます。もし使い方が判らなくなったら、近くの図書館員に質問することも出来るので安心です。しかし毎回図書館に足を運ぶのは無理という場合には、Web OPACが便利です。ただ、インターネットに接続していることが条件になると、使用する回数によっては検索結果の表示が遅くなる場合もあります。また、携帯版OPACを利用する場合は、パケット料金は利用者各自で負担しなければならないので、たくさん検索すれば請求料金は高くなるので注意が必要です。しかしいずれのOPACを使っても、或いは本館と分館のOPACを使ってもサーバーは共通ですので、同一項目で同一キーワード検索をすれば結果は同じになります。

ふじい たつや（司書・係長・アジア関係図書館）